

総合特別区域の進捗に係る評価  
[観光等分野]

令和3年度

国際医療交流の拠点づくり 「りんくうタウン・泉佐野市域」地域  
活性化総合特区

[指定：平成23年12月、認定：平成24年3月]

I 目標に向けた取組の進捗に関する評価

i) + ii) の平均値  $(5+4)/2=4.5$

4.5

i) 取組の進捗

目標値に対する実績に基づく進捗度(当年度実績)

番号	評価指標	進捗度	評点
1	国際医療交流の推進	117%	5
2	訪日外国人へのホスピタリティや地域魅力の向上による訪日促進	-	-

評価指標毎の進捗の評価の平均値  $(5 \times 1 + 4 \times 0 + 3 \times 0 + 2 \times 0 + 1 \times 0) / 1 = 5$

5.0

※1) 1つの評価指標に複数の数値目標がある場合は、各数値目標の評価を寄与度に応じて加重平均する。  
(例) 評価指標1について、a、b、cという3つの数値目標があり、各数値目標の評点・寄与度がa:5・20%、b:4・10%、c:3・70%の場合、 $5 \times 0.2 + 4 \times 0.1 + 3 \times 0.7 = 3.5$ で、四捨五入して評価指標1の評価は「4」となる。

※2) 評価指標1は複数の数値目標があり、※1のとおり各数値目標の評価を寄与度に応じて加重平均しているため、進捗度と評点が一致しない。

■ 地方公共団体による特記事項

※外部要因による数値への大幅な影響等があれば記載

ii) 取組の方向性に対する評価

専門家による評価の平均値

4.0

II 支援措置の活用と地域独自の取組の状況に関する評価

i)、ii)、iii) の平均値  $(3+3.7+3.8)/3=3.5$

3.5

i) 規制の特例措置を活用した事業等の評価

専門家による評価の平均値

3.0

ii) 財政・税制・金融支援の活用実績の評価

専門家による評価の平均値

3.7

iii) 地域独自の取組の状況の評価

専門家による評価の平均値

3.8

### Ⅲ 取組全体にわたる事業の進捗と政策課題の解決に関する評価

(専門家所見(主なもの))

3.5

- ・医療と観光の連携については、ヘルス(ウェルネス)をテーマとするツアーの造成が開始されたとは言え、依然として必然性が弱い。当地の観光ポテンシャルを活かした段階的な取り組みを進める中で、ますます医療と連携することの優位性がぼやけてきているようである。国際的な医療の交流や遠方から来訪する患者の受け入れにあたっては、MICE同様観光的なインフラが重要である。またコロナ禍で際立ったように、観光面からも訪問先で医療の環境が整っていることは訪問地選定の材料となり得る。こうした2分野の相互補完性を明確に位置づけ、実施体制の構築に取り組む方が良いのではないかと。
- ・前年度の評価結果を踏まえて積極的に取り組む姿勢が評価できる。医療と観光の連携については、ヘルス(ウェルネス)をテーマとした周遊ルートを確認すべく、ツアーの造成に取り組んでおり、また、地域DMOを核とした域内連携を推進するなど、具体的な取り組みに期待したい。また、ターゲットの明確化という課題においては、コロナ禍でインバウンド客の誘致が当面望めないことから、国内宿泊客向けのキャンペーンを実施するなどの取り組みも評価できる。
- ・関空ゲートシティ、国際医療拠点としての泉佐野の知名度も不足していると思われ、2025大阪関西万博開催、アフターコロナを見据えてその地位を確立するには、なぜ泉佐野に来訪したのか、泉佐野を知った動機など、マーケティングを改めて行い、ターゲット国を明確にした戦略的なプロモーションが必要。
- ・民間施設との相乗効果が拡大しており、戦略や対応策のバリエーションが増えたと思われます。りんくうならではのカラーを打ち出した取り組みを期待。

専門家による評価(専門家の総合的な所見)の平均値

3.5

### 総合評価

I、II及びIIIを1:1:2の比率で計算  $(4.5+3.5+3.5 \times 2) \div 4 = 3.8$

3.8

(注)評価に係る評点及び表記の考え方については以下のとおり。

- ・評価は5～1(評点)で行う。
- ・進捗度は、100%以上を5、80%以上100%未満を4、60%以上80%未満を3、40%以上60%未満を2、40%未満を1とする。
- ・進捗度以外の評価項目における評点は、5:著しく優れている、4:十分に優れている、3:適当である、2:適当であると認めるには不十分である、1:適当であると認められないとする。